

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493600033
法人名	株式会社エクセルシオール・ジャパン
事業所名	グループホーム いきいきの家 泉
訪問調査日	平成 19 年 8 月 9 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 28 日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1493600033
法人名	株式会社エクセルシオール・ジャパン
事業所名	グループホーム いきいきの家 泉
所在地	神奈川県横浜市泉区上飯田町3805-6 (電話) 045-806-2351

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年6月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	8 人	常勤	8	非常勤	0	常勤換算	6.3

(2) 建物概要

建物構造	(木)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	71,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月1日 現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 75.5 歳	最低	55 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南泉病院、横浜寿光会クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは周囲を畑で囲まれ緑豊かな自然の中に位置しています。建物も新しく、開口部を多く取ってあるため明るくて日照・通風も良く、快適な住環境にあります。内部はオープンキッチンに連続した広い談話室が建物の中心に南側にあり、利用者の日常生活の中心となっています。開設1年のため態勢の整っていない点も見られますが、利用者のさわやかな顔を見るために毎日の散歩を日課としたり、毎日の入浴を可能にして声掛けを行ったりと、管理者と職員が利用者の日常生活を最大限に支援していこうとする姿勢が感じられます。また終末期の利用者の看取りを行うなど、難しい対応にも積極的に取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての取組みのため該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回が初めての取り組みですが、職員全員に自己評価を配布し、職員が記入して各階のリーダーが取りまとめており、全員参加で行っています。管理者は、評価で確認した課題について管理者・職員で話しあい、今後の取組みに活かしていこうと考えています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議のメンバー構成も決まり、8月28日に開催される事が決定しています。今後、運営推進会議で話し合われた内容や意見を参考にしてサービス向上につなげていく方針です。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見、不満、苦情については何時でも聞くことを家族に伝えています。家族会は組織されていませんが、イベント開催時には積極的に家族と交わり、意見を聞くようにしています。苦情・不満の意見が出た場合は、職員一同で共有し解決しようと努めています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) まだ開設1年ということもあり地域の情報を収集・把握している段階です。それでも開設当初から自治会に加入して、自治会主催の盆踊り等の行事に参加したり、区役所で開催された展示会に利用者の作品を展示したりして地域との交流に努めています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念や心構えを掲示して、職員と共に共有し、日々生かしています。		ホーム独自の理念がありませんので、地域密着型サービスの役割を考えながら、ホーム独自の理念を作り上げていくことが望まれます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は法人の理念や目標については共有し、朝礼・夕礼また日常の業務の中で話をし、理念の実践に向けて日々取り組んでいます。		管理者職員間の話し合いによってホーム独自の理念を作り上げ、日々理念の掘り下げを行い目標設定をしていく事が望まれます。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から自治会に加入して、自治会主催の盆踊り等の行事に参加したり、区役所で開催された展示会に利用者の作品を展示したりしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価用紙を配布し、それぞれリーダーがまとめを行なって提出しています。		今回が初めての外部評価となるため、終了後管理者・職員で今後の取り組みを話し合い、サービスの質の確保と向上につなげていく事が望まれます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバー構成も決まり、8月28日に開催される事が決定しています。		運営推進会議で話し合われた内容や意見を参考に、サービスの向上に努める事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年の開設時には、当ホームを理解し支援して頂けるような働きかけを地元行政に行ない、その後も情報収集や、地域に対しても理解や支援をして頂けるような働きかけを行なっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりを記入した「生活状況報告書」を毎月、施設の動き・様子をまとめた「いきいき通信」を3ヶ月に1度、それぞれ発刊しています。また金銭については、各担当者が金銭出納帳と領収書を添付して毎月末に家族と精算をしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情については何時でも聞くことを家族に伝えていきます。家族会は組織されていませんが、イベント開催時には積極的に家族と交わり、意見を聞くようにしています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他施設への異動は当面予定されていませんが、離職等に対応するため1・2階の職員間で異動させたり、1・2階で横断的なシフトの編成等を試みて、利用者との馴染みの関係を作るようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に交通費を支給して施設研修を経験させ、研修結果を申し送りノートに記入させて、内容を職員間に周知させています。またケアマネージャーや准看護師資格の職員をスーパーバイザー的に位置づけ、経験の浅い職員を育成しています。		法人全体として管理者・職員の基本的な育成計画・研修計画の作成が望まれます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当初には系列外の近隣のグループホームの協力を得て、職員全員が研修を受けました。それをきっかけに管理者同士の情報交換を行っています。		地域で9施設のグループホームが開設している状況を活かして、施設間の交流・情報交換等の機会を増やしていく方針を立てており、一層のサービスの向上が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得をした上でサービスを利用して頂く為に、家族や本人に見学をして頂いたり、見学の出来ない方にはホームより利用者を訪問し面談を行ってから入所をして頂いています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から魚の捌き方や調理の方法などを教わったり、敬老会でプレゼントした座布団と一緒に作って頂いたり、暮らしの知恵を職員が学びながら支えあう関係を築いています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を気兼ねなく話し合える雰囲気づくり(夕飯後にゆっくりと時間を取って一人ひとりと話をする時間を作る等)や、把握が困難な利用者には細かい表情(顔・しぐさ等)を見逃さずに意向を汲み取るようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や、3ヶ月に1回のカンファレンスにおいて職員全員の意見を聞き介護計画を作成しています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは入所後1ヶ月目、その後は3ヶ月目、その後6ヶ月目に行っている。状況に変化がある場合は、カンファレンスを待たずにそれぞれ職員に意見を聞き見直しを行っています。		状況の変化によって見直しを行なう場合は、職員の意見を聞くと共に、その意見等を記録に残す事が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開所1年であるためにこれからですが、現在は通院の付き添いを行っています。今後に向け利用者・家族の要望や支援について情報を収集しているところです。		独自の自主サービスを含め、利用者・家族の暮らしの継続を守るための柔軟な支援を期待します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1・2階毎に隔週訪問診療(内科)・訪問歯科・訪問看護が来ており、このため実質毎週1回は訪問診療が来ていることとなります。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に終末期に関する希望を書面で提出していただいています。また実際に終末期を迎えた利用者には家族・医師・看護師と話し合いの機会をもち、提携医師のバックアップのもと、ホームで看取った事もあります。		今回の事例を今後につなげるために、方針や支援内容をまとめておき、対応方針の共有化を図る事が期待されます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時に研修を行っており、一人ひとりの個人情報を把握して言葉掛けに配慮をしています。また、個人情報の保管には、夜間の施錠やホーム外に持ち出さない等漏洩防止に心掛けています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の能力や希望に合わせて、散歩や買い物、室内での折り鶴作りや手芸等、日々さまざまな過ごし方を支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、声掛けをしながら配膳、片付け等を手伝ってもらっています。料理の得意な利用者からは、料理の方法、隠し味の付けかた等を教えてもらいながら料理しています。また、食べたいもの好きなものを聞いて、職員が買いに行っています		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴を可能にしており、毎日声掛けを行っています。朝風呂、午後の入浴等利用者の希望に合わせており、毎日入浴をしている人もいます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草むしり、庭や談話室の掃除、洗濯物たたみ等利用者個々の能力、適性に合わせて家事等に参加してもらっています。また会話から過去の得意な事を引き出して(例えば生け花)、役割を担ってもらっています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩から帰ってきた後は利用者のさわやかな顔が見られるため、毎日のように散歩に出かけています。車椅子の人も元気な人が引っ張って、時々参加をしています。施設の車で買い物にも出かけています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は掛けていません。2階の扉は錠が掛かる仕組みになっていますが、玄関扉も含め開けっ放しの事が多いです。外出しそうな時には声掛けをして行動を把握するようにしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設単独で定期的に昼夜の火災を想定し、利用者も参加して避難訓練を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックして管理しています。自分で食事をする人がほとんどですが、食事量の少ない人には、声掛けをしながら料理の仕方を変えてでも食事を促して必要量の確保に努めています。水分量は1日1500mlを目安にしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開口部が多い建物のため、通気性も良く明るく清潔な感じがします。談話室等の共用の窓にはレースのカーテンが引かれ、日差しにも配慮がされています。玄関には利用者が生けた花が飾られて季節感が感じられ、また談話室は対面式のキッチンになっており、台所の臭いや家事の音で生活感が感じられます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの好みに合わせて居心地良く暮らせるよう、また独居の人には関係者と相談しながら安心して過ごせるよう、身の回りの品、家具等を揃えるようにしています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	いきいきの家 泉
(ユニット名)	江ノ島 1階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区上飯田町3805-6
記入者名 (管理者)	加藤 渡
記入日	平成 19年 7 月 4 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員一同、当社法人理念を共有し、日々生かしている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者はグループホームの法令及びその意義を理解し、常に研鑽に努めている。具体化した目標等についても日常の勤務を通じて職員に話をしている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	重要事項説明書を玄関前に掲示し、法人の理念を伝えている。開所時にはパンフレット等を自治会掲示板に掲示し、近隣の方々に挨拶回りをして、施設見学会を実施した。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	玄関周りや敷地内に草花を植え、親しみやすい雰囲気を作っています。散歩の途中農作物を作られている方に声をかけ施設のことについて説明し、機会があれば立ち寄ってくださいと声をかけている。	近隣に小学校・中学校が有り、通学途中の生徒さんに声をかけたり、近隣の方が散歩しているときなど挨拶をしている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	開所時から自治会に入会している。自治会の行事、祭りやバザー等に参加し、地元の方々と交流している。	自治会の回覧等で把握している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	泉区役所主催の展示会に利用者さん作品を出展した。近隣中学校より、課外活動の一つとして、生徒さんが来訪し利用者さんとリクリエーション等を行った。		定期的に児童・生徒さんの見学を受入れ、施設行事に招待したいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			具体的な評価が終了してから管理者・職員で今後の取り組みを真摯に受け止め取り組んで生きたいと考えている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			運営推進会議で話し合いされた内容や意見等を参考にサービス向上に努めたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の情報を収集し、如何に関ればサービスの質の向上につながるか職員一同、常に検討している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			利用者さんが、より良い生活を送れるよう制度について話し合っ活用できるようしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さんと日常の雑談等から、虐待の兆候を見逃さないよう些細なことでも注意するよう指導している。		高齢者虐待のシンポジウムに参加したい。失礼な言葉遣いにならないよう接遇に注意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を説明し、利用者さん・ご家族等のご理解、納得した上で契約をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者さんと職員が日常雑談する雰囲気をつくり、意見・苦情・相談が言えるよう、心がけて努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に各利用者さんの担当が金銭出納帳と領収書等を添付し、ご家族と精算をしている。 毎月、ご家族等に生活状況報告書及び三ヶ月に一度、いきいき通信を発刊し報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項の説明の際に苦情相談機関をお話している。 ご家族等と積極的に係わり、苦情・不満の意見が出た場合は職員一同で共有できるよう努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼や職場連絡会等で意見や提案を聞き、施設運営に反映されている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者が日ごろから勤務調整に努め、利用者さんへの対応に心がけている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設内の1階・2階の移動はありますが、他施設への異動等はなく馴染みの職員による支援を受けられるよう配慮をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加し、個々の目標や向上心を持つよう指導を受けている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オープン時に近隣の他グループホーム の協力を得て、職員全員研修をしました。その後、管理者の情報交換もおこなっている。		昨年6月にオープンしたばかりで、特定の施設とは交流を持っているが数が少ないので増やしていきたいと考えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	癒されるように季節の草花を植え、観賞できるよう心がけている。		職員が利用者さんと離れて一息いれる休憩時間や居場所の確保したいと考えている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力に対して賞賛の言葉をかけてもらい、向上心を持ち続けられるよう配慮されている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前、入所後の状況を理解し、意向を受けいれている。利用者さん又は職員間でも話し合う機会を持っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の状況を把握し、ご家族の不安を解消できるよう話し合う機会を持って信頼関係を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を提供できるよう工夫し、対策を考えている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活リズムや施設の雰囲気、利用者間との適度な距離をたもち適切なケアをしている。 サービスを押し付けることなく、話し合いを持ち納得して受けられるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんの能力に応じて、自立した支援を応援し、家事など暮らしの知恵を職員が学び活用するよう配慮している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を取り、家族の思いを職員が共有する事で利用者さんを支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と利用者さんの絆が切れることのないように、連絡を取りあい情報の交換している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの昔話等を聞き、その時代の出来事などを話題にすることにより、思い出をふくらませようとしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士のもめごとには職員がすぐに対応し、両方の意見などを聞き孤立する事のないよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も気軽に立ち寄ってもらえるよう行事の日程やいきいき通信等を郵送している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望や希望を気兼ねなく話し合える雰囲気作り、一人ひとりと向かい合っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さん一人ひとりを理解するためには、過去の生活歴を把握するよう情報収集している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安全に心がけ、生活のリズム、習慣、体調の変化等を記録し、職員一同情報を共有できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者さんの変化に応じて、柔軟に対応ができるよう職員同士意見を出し、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した対応ができるよう必要な関係者と連絡をとり、話し合い計画の見直ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアをしながら工夫した点、そこから得られた結果を経過記録、生活記録として残し、改善すべき問題点は見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者さんが人間らしく生活していけるサービスや支援について情報を収集している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	職員の理解を深める為、地域の連絡会や消防署の講習会等には随時参加している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の担当のケアマネジャー他と情報の交換をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			今後包括支援センターと情報交換をしていきたいと思う。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療が受けられるよう支援し、ご家族の同意も受けて受診している。二週間に1度の割合で訪問診療・訪問歯科を受診して健康管理している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の相談できる医師が二週に一度の割合で診察に来ています。その際、職員が相談できるようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度訪問看護師が来ます。その際、健康管理と医療活用の支援を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と相談をしながら早期退院に向けて話し合っている。ADL低下の防止のため担当医師・看護師と情報交換をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、本人とご家族の意向に応えるよう終末期について話し合いをしている。また、終末期を迎えるようになりましたら再度、ご家族と医師・看護師、職員と話し合い取り組んでいる。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けて、医師や看護師を交え話し合いをし、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住居の移動になった場合、個別情報の伝達を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの個人情報を把握して言葉がけに心がけている。個人情報の記録等は職員意外には目に触れないよう管理している。自宅に仕事を持ち込まないよう気をつけている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者さんが決めたことや希望したことを大切に、暮らせるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の能力にあわせ、希望にそって毎日が過ごせるよう支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>2ヶ月に一度のペースで訪問理美容をしています。女性はカラーで髪をセットしたり、マネキュアも対応している。洋服は近隣のショッピングセンター等に本人又は職員が希望を聞いて買物に行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者さんの能力に合わせてお手伝いをお願いしている。準備しながら味付けについてや隠し味などを話しながら作り、食事をしながら総評したりして楽しんで食事し、後片付けをしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人が望む飲み物、おやつ等好みのものを日常楽しんでます。タバコについては所定の場所で喫煙しています。お酒についてはアルコール依存症の方も入所していますので、施設として禁酒にしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつの使用はできるだけ控えるようにし、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導に心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者さんの希望にあわせて入浴しています。入浴の嫌いな方についてはタイミングをみて誘導し入浴支援しています。入浴が楽しめるように入浴剤や季節に合わせたゆず・菖蒲等を入れるようにしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中散歩や周辺の掃除、花壇の整理等をして、体を動かすことに心がけ、一人ひとり生活のリズムを乱さないよう心がけています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて家事や植木の手入れ等に参加をお願いしています。その際、目標設定をしたりして、達成感を得られるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり担当者を決め、金銭管理をしている。買物に行く場合は同行し、お金を使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者さんの希望にあわせて、散歩や買物等外出に出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば随時計画を立て、実現できる支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話が出来るよう支援している。手紙も切手等を用意している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は常時可能にしています。希望があれば馴染の人との外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は身体的拘束によって受ける身体的・精神的弊害について理解し拘束の無いケアを実施している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者さんの自由な暮らしを支え、利用者さんやご家族等に心理的圧迫をもたれないよう日中は玄関の施錠をしていません。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜通して利用者さん見守りやすい位置にいて、様子を把握し安全に注意している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者さんの状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを把握し管理方法の取り決めをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者さんの状況に応じて、想定される事故を検討。実際におきた事故やヒヤリハットをもとに再度検討し、今後事故が起きないように話し合い取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会で応急手当や初期対応の訓練を定期的を実施し、マニュアルを作成し常時確認できようしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を問わず火災などを想定して定期的に非難訓練実施している。		地域住民にも声をかけ、協力をえるようにしたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、ご家族等に対して対応策を説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各勤務交代時に申し送りを行っている。バイタルチェック等を等で異変があれば速やかに管理者及び訪問看護師に連絡し支持をおおぎ記録用紙に記入し情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりの内容は個人ファイルに綴られてあり、目的や副作用、用法や用量について承知している。内容等変更された場合は申し送りノートに記載し、朝礼・夕礼にて申し送りしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の食事を取るよう心がけ、それぞれの状況にあわせて、毎朝牛乳等で対応している。運動は毎朝ラジオ体操、散歩等で体を動かすよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者さんの状況に合わせて、毎食後口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔ケアをしている。月に2回訪問歯科にて管理をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にもよりますが、水分量は一日1500ml以上を目安に摂取するよう心がけ、その都度記録し管理している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを職員が見やすいところに置き、いつでも確認できるようしている。感染対策委員を3名配置し、活動や情報を伝達している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	講習会などに参加して、職員へマニュアル等を作成し伝達をおこなっている。消毒についてはその都度実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内には門は無く、開放的な出入り口になっている。バリアフリーで安心して車椅子の人でも自由に出入りできるよう設計がされている。玄関前にはプランターを置き、季節の花を楽しめるよう心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者さんが活けた生花が飾られている。居間と台所は対面式になっていて、家事の音や臭いを感じ、生活感を感じさせるような工夫がされている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自固有のテーブル席を設け、気のあって同志で過ごせるよう配慮している。TV前にはソファがありくつろげるように配置している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが馴染みの家具や寝具を使って、部屋を整え安心して過ごせるよう工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調設備は居室・居間・風呂場等完備されている。換気は適宜行い温度設定は利用者さんに聞いて調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はすべりについ素材でできている。トイレ・浴室等手すりやバリアフリーになっている。車椅子対応のトイレが2箇所あります。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者さんの活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の希望や状況に応じて提供している。時計やカレンダーを見やすい位置に配置するよう配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日光浴や本などを読めるように椅子等を用意し、憩いの空間になるよう配置している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな自然の中で、利用者様の人格を尊重し接遇を心がけ、常に利用者様の立場に立ったサービスと必要とする適切なサービスを提供するよう努めている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	いきいきの家 泉
(ユニット名)	鎌倉 2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区上飯田町3805-6
記入者名 (管理者)	加 藤 渡
記入日	平成 19年 7 月 4 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員一同、当社法人理念を共有し、日々生かしている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者はグループホームの法令及びその意義を理解し、常に研鑽に努めている。具体化した目標等についても日常の勤務を通じて職員に話をしている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	重要事項説明書を玄関前に掲示し、法人の理念を伝えている。開所時にはパンフレット等を自治会掲示板に掲示し、近隣の方々に挨拶回りをして、施設見学会を実施した。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	玄関周りや敷地内に草花を植え、親しみやすい雰囲気を作っています。散歩の途中農作物を作られている方に声をかけ施設のことについて説明し、機会があれば立ち寄ってくださいと声をかけている。	近隣に小学校・中学校が有り、通学途中の生徒さんに声をかけたり、近隣の方が散歩しているときなど挨拶をしている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	開所時から自治会に入会している。自治会の行事、祭りやバザー等に参加し、地元の方々と交流している。	自治会の回覧等で把握している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	泉区役所主催の展示会に利用者さん作品を出展した。近隣中学校より、課外活動の一つとして、生徒さんが来訪し利用者さんとリクリエーション等を行った。		定期的に児童・生徒さんの見学を受入れ、施設行事に招待したいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			具体的な評価が終了してから管理者・職員で今後の取り組みを真摯に受け止め取り組んで生きたいと考えている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			運営推進会議で話し合いされた内容や意見等を参考にサービス向上に努めたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の情報を収集し、如何に関ればサービスの質の向上につながるか職員一同、常に検討している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			利用者さんが、より良い生活を送れるよう制度について話し合っ活用できるようしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さんと日常の雑談等から、虐待の兆候を見逃さないよう些細なことでも注意するよう指導している。		高齢者虐待のシンポジウムに参加したい。失礼な言葉遣いにならないよう接遇に注意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を説明し、利用者さん・ご家族等のご理解、納得した上で契約をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者さんと職員が日常雑談する雰囲気をつくり、意見・苦情・相談が言えるよう、心がけて努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に各利用者さんの担当が金銭出納帳と領収書等を添付し、ご家族と精算をしている。 毎月、ご家族等に生活状況報告書及び三ヶ月に一度、いきいき通信を発刊し報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項の説明の際に苦情相談機関をお話している。 ご家族等と積極的に係わり、苦情・不満の意見が出た場合は職員一同で共有できるよう努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼や職場連絡会等で意見や提案を聞き、施設運営に反映されている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者が日ごろから勤務調整に努め、利用者さんへの対応に心がけている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設内の1階・2階の移動はありますが、他施設への異動等はなく馴染みの職員による支援を受けられるよう配慮をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加し、個々の目標や向上心を持つよう指導を受けている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オープン時に近隣の他グループホーム の協力を得て、職員全員研修をしました。その後、管理者の情報交換もおこなっている。		昨年6月にオープンしたばかりで、特定の施設とは交流を持っているが数が少ないので増やしていきたいと考えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	癒されるように季節の草花を植え、観賞できるよう心がけている。		職員が利用者さんと離れて一息いれる休憩時間や居場所の確保したいと考えている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力に対して賞賛の言葉をかけてもらい、向上心を持ち続けられるよう配慮されている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前、入所後の状況を理解し、意向を受けいれている。利用者さん又は職員間でも話し合う機会を持っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の状況を把握し、ご家族の不安を解消できるよう話し合う機会を持って信頼関係を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を提供できるよう工夫し、対策を考えている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活リズムや施設の雰囲気、利用者間との適度な距離をたもち適切なケアをしている。 サービスを押し付けることなく、話し合いを持ち納得して受けられるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんの能力に応じて、自立した支援を応援し、家事など暮らしの知恵を職員が学び活用するよう配慮している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を取り、家族の思いを職員が共有する事で利用者さんを支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と利用者さんの絆が切れることのないように、連絡を取りあい情報の交換している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの昔話等を聞き、その時代の出来事などを話題にすることにより、思い出をふくらませようとしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士のもめごとには職員がすぐに対応し、両方の意見などを聞き孤立する事のないよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も気軽に立ち寄ってもらえるよう行事の日程やいきいき通信等を郵送している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望や希望を気兼ねなく話し合える雰囲気作り、一人ひとりと向かい合っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さん一人ひとりを理解するためには、過去の生活歴を把握するよう情報収集している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安全に心がけ、生活のリズム、習慣、体調の変化等を記録し、職員一同情報を共有できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者さんの変化に応じて、柔軟に対応ができるよう職員同士意見を出し、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した対応ができるよう必要な関係者と連絡をとり、話し合い計画の見直ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアをしながら工夫した点、そこから得られた結果を経過記録、生活記録として残し、改善すべき問題点は見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者さんが人間らしく生活していけるサービスや支援について情報を収集している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	職員の理解を深める為、地域の連絡会や消防署の講習会等には随時参加している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の担当のケアマネジャー他と情報の交換をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			今後包括支援センターと情報交換をしていきたいと思う。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療が受けられるよう支援し、ご家族の同意も受けて受診している。二週間に1度の割合で訪問診療・訪問歯科を受診して健康管理している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の相談できる医師が二週に一度の割合で診察に来ています。その際、職員が相談できるようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度訪問看護師が来ます。その際、健康管理と医療活用の支援を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と相談をしながら早期退院に向けて話し合っている。ADL低下の防止のため担当医師・看護師と情報交換をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、本人とご家族の意向に応えるよう終末期について話し合いをしている。また、終末期を迎えるようになりましたら再度、ご家族と医師・看護師、職員と話し合い取り組んでいる。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けて、医師や看護師を交え話し合いをし、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住居の移動になった場合、個別情報の伝達を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの個人情報を把握して言葉がけに心がけている。個人情報の記録等は職員意外には目に触れないよう管理している。自宅に仕事を持ち込まないよう気をつけている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者さんが決めたことや希望したことを大切に、暮らせるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の能力にあわせ、希望にそって毎日が過ごせるよう支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>2ヶ月に一度のペースで訪問理美容をしています。女性はカラーで髪をセットしたり、マネキュアも対応している。洋服は近隣のショッピングセンター等に本人又は職員が希望を聞いて買物に行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者さんの能力に合わせてお手伝いをお願いしている。準備しながら味付けについてや隠し味などを話しながら作り、食事をしながら総評したりして楽しんで食事し、後片付けをしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人が望む飲み物、おやつ等好みのものを日常楽しんでます。タバコについては所定の場所で喫煙しています。お酒についてはアルコール依存症の方も入所していますので、施設として禁酒にしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつの使用はできるだけ控えるようにし、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導に心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者さんの希望にあわせて入浴しています。入浴の嫌いな方についてはタイミングをみて誘導し入浴支援しています。入浴が楽しめるように入浴剤や季節に合わせたゆず・菖蒲等を入れるようにしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中散歩や周辺の掃除、花壇の整理等をして、体を動かすことに心がけ、一人ひとり生活のリズムを乱さないよう心がけています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて家事や植木の手入れ等に参加をお願いしています。その際、目標設定をしたりして、達成感を得られるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり担当者を決め、金銭管理をしている。買物に行く場合は同行し、お金を使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者さんの希望にあわせて、散歩や買物等外出に出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば随時計画を立て、実現できる支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話が出来るよう支援している。手紙も切手等を用意している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は常時可能にしています。希望があれば馴染の人との外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は身体的拘束によって受ける身体的・精神的弊害について理解し拘束の無いケアを実施している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者さんの自由な暮らしを支え、利用者さんやご家族等に心理的圧迫をもたれないよう日中は玄関の施錠をしていません。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜通して利用者さん見守りやすい位置にいて、様子を把握し安全に注意している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者さんの状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを把握し管理方法の取り決めをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者さんの状況に応じて、想定される事故を検討。実際におきた事故やヒヤリハットをもとに再度検討し、今後事故が起きないように話し合い取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会で応急手当や初期対応の訓練を定期的実施し、マニュアルを作成し常時確認できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を問わず火災などを想定して定期的に非難訓練実施している。		地域住民にも声をかけ、協力をえるようにしたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、ご家族等に対して対応策を説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各勤務交代時に申し送りを行っている。バイタルチェック等を等で異変があれば速やかに管理者及び訪問看護師に連絡し支持をおおぎ記録用紙に記入し情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりの内容は個人ファイルに綴られてあり、目的や副作用、用法や用量について承知している。内容等変更された場合は申し送りノートに記載し、朝礼・夕礼にて申し送りしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の食事を取るよう心がけ、それぞれの状況にあわせて、毎朝牛乳等で対応している。運動は毎朝ラジオ体操、散歩等で体を動かすよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者さんの状況に合わせて、毎食後口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔ケアをしている。月に2回訪問歯科にて管理をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にもよりますが、水分量は一日1500ml以上を目安に摂取するよう心がけ、その都度記録し管理している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを職員が見やすいところに置き、いつでも確認できるようしている。感染対策委員を3名配置し、活動や情報を伝達している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	講習会などに参加して、職員へマニュアル等を作成し伝達をおこなっている。消毒についてはその都度実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内には門は無く、開放的な出入り口になっている。バリアフリーで安心して車椅子の人でも自由に出入りできるよう設計がされている。玄関前にはプランターを置き、季節の花を楽しめるよう心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者さんが活けた生花が飾られている。居間と台所は対面式になっていて、家事の音や臭いを感じ、生活感を感じさせるような工夫がされている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自固有のテーブル席を設け、気のあって同志で過ごせるよう配慮している。TV前にはソファがありくつろげるように配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが馴染みの家具や寝具を使って、部屋を整え安心して過ごせるよう工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調設備は居室・居間・風呂場等完備されている。換気は適宜行い温度設定は利用者さんに聞いて調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はすべりについ素材でできている。トイレ・浴室等手すりやバリアフリーになっている。車椅子対応のトイレが2箇所あります。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者さんの活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の希望や状況に応じて提供している。 時計やカレンダーを見やすい位置に配置するよう配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日光浴や本などを読めるように椅子等を用意し、憩いの空間になるよう配置している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな自然の中で、利用者様の人格を尊重し接遇に心がけ、常に利用者様の立場に立ったサービスと必要とする適切なサービスを提供するよう努めている。